

地球地図プロジェクトの概要

○地球地図プロジェクトについて

地球地図プロジェクトは、地球環境問題の分析等に必要な基盤的な地理情報データベース（地球地図データ）を世界各国の地図作成機関の自発的協力の下で整備するプロジェクト。日本国の国土交通省（当時は建設省）が平成4年に本プロジェクトを提唱し開始（現在、180カ国・地域がプロジェクトに参加）。

昨年、地球の全陸域をカバーする地球地図第一版が完成し、インターネットを通じて一般提供開始。

プロジェクトの進行管理は地球地図国際運営委員会（事務局：国土地理院）が担当。

○地球地図データの特徴

- ・地球の全陸域を統一仕様でカバー
- ・1 kmの解像度（縮尺100万分の1の地図に相当）
- ・8つのデータ項目（標高、土地被覆、土地利用、植生（樹木被覆率）、交通網、境界、水系、人口集中域）
- ・5年ごとに更新

○地球地図の主な利用用途例

（1）地球環境分野

例：砂漠化、森林減少等の状況把握。地球温暖化による海面上昇等のシミュレーション。温室効果ガスの排出・吸収の算定。

（2）防災分野

例：大地震等の広範囲の自然災害の被害状況把握。

（3）教育分野

例：「地球地図の学校」※、「地球地図コンテスト」等の教材。

※ 日本の学生と、フィリピン、タイの学生との交流授業

○関連ホームページ

- ・「みんなの地球地図プロジェクト」ホームページ

<http://www.globalmap.org/>

※地球地図の土地被覆、植生（樹木被覆率）データの閲覧が可能。利活用事例などの情報を提供。

- ・地球地図国際運営委員会（英語のみ）のページ

<http://www.iscgm.org/>

※地球地図データの入手が可能。